

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々とかかわりを持ちながら、グループホームの意義を踏まえて理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや研修等で理念の実践に向けて日々職員に話す機会を作っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居契約時に理念を利用者、家族に説明している。又地域にパンフレットを配布したり、ホーム便りを発信し、家族や地域の人々にも理解して頂けるよう努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は散歩に出かけ、隣近所の人と声をかけあったり、ケアハウスや他事業所の利用者との交流を持っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（盆踊りやどんど焼き、花祭り等）に参加し交流している。又他事業所の利用者が訪問して下さったりしている。法人として地域町内会組長会議に毎回出ている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の得意分野を生かし、新聞のチラシでくず入れを作ったり特養のおむつたたみ等利用者と一緒にいき、出来たものを持って行き交流を図っている。又手作りのおやつを作って託児所の幼児を招待したりして交流を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの質の確保と向上の為に事業所全体で外部評価の改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営会議を行い利用者の近況や活動状況やサービスに対する意見交換している。又外部評価についても課題について報告し話合っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から運営推進会議の出席により意見を頂いているが、この他にも広域連合より介護相談員が、毎月2回の定期訪問にて意見を頂いており、質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修報告会を通じて制度について学ぶ機会を持っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い、どんな場合でも虐待はしない事が松快園としての方針として徹底している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書をわかりやすく説明し、納得して頂いている。解約時は家族と充分話し合い、退居先の紹介、支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者から一人参加して頂き意見を頂いている。広域連合より介護相談員も来て下さり、利用者との意見交換等して頂いている。又苦情窓口の公開をし、外部者へ表せる機会も設けている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに利用者の近況、預かり金の残金を記入する欄を設けている。面会された時、定期受診の結果や近況をお知らせし、金銭出納帳を見て頂き報告している。又暑中見舞い、年賀状、文化祭の案内は利用者に自由に書いて頂いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見、要望があった時はすみやかに対処し、結果を報告している。又ホームの玄関先に苦情相談の箱を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、職種会議等で職員が遠慮なく云える雰囲気の中で意見要望が聞ける機会を作っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な職員配置はできているが職員の急な休みの時や行事等には人員配置を強化する等策を立てている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限度にとどめておりできるだけ異動がないようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用に関しては性別や年齢等を理由に採用していない。働く職員については、その職員の得意分野を大切にし、サービスに反映している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修報告会を通じ、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修を行ったり、グループホーム内での研修会、他事業所での研修会等にも参加している。認知症介護実務者研修をはじめ、外部研修も昨年より行なっている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で同業者と情報交換をし、近くの同業者とも交流し、情報交換を行なっている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減する為昼休みは職員が交代で事務所で休憩し、利用者から離れる時間を作っている。仕事でわからない事等は上司に気軽に聞きスーパーバイザーの役をもらっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人全体で年間を通じて研修会を行ったり各部署の勉強会や研修会に参加し、勉強会や研修会の発表の場を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前より本人や家族の意見を十分に聞きグループホームについて十分に説明した上で安心して利用して頂けるようにしている。又今までの生活歴を聞き本人を十分に理解する様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに家族の話をよく聞き、今何を一番必要とされているのか十分に理解する様にしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設を見学に来訪されたり、申し込みに来られた時には実情や要望をよく聞き、他のサービス利用等も説明している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに馴染んで頂く為、時々遊びに来て頂いたり、行事に案内状出し行事と一緒に参加して頂くことにより入居前より交流を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意とする事を一緒に行いながら教えて頂いたり、その時のことを聞いたり共に共感しあえる関係づくりを大切にしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、施設での行事や家族毎の記念行事等、共に参加したり、情報交換を密にすることにより家族と支えていく関係づくりを築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の近況を伝えたり行事に参加の機会を多く作ることにより、よりよい関係を築いている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事がある時は他の事業所に行き馴染みの方に会ったり、来てもらったりし交流している。利用者の昔住んでいた自宅の近所や公園等馴染みのある場所をドライブの際立ち寄り、馴染みの人と交流している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	できる人ができない人をサポートしたり、利用者同志が理解しあえる関係作りを構築できるよう配慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されても継続的に面会に行ったり、来て頂いたりし御本人だけではなく、御家族との交流もっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者にとどのように暮らしたいか、本人の希望や願いを聞き一つでも実現できるよう支援している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族・利用者から生活歴・職業歴・生活環境等を聞き、利用者の生活背景を知り、経過把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の出来る力、得意とする事を見出したり、過去の生活歴を把握し、その人らしく過ごすよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き、本人の状況の変化も見直し、計画作成担当者が必要な関係者の意見を取り入れ計画を立てている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の介護度の変化・病気等の入院・退院によりケアサービスの変化の際には、その都度必要な関係者とのカンファレンス等によりケアプランの見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の様子を細かく記録し、日々の変化を見逃さない様にしている。職員、家族等誰がみてもわかる様に記録を残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っており医療デイケア・往診等があり、利用者の負担にならない様、医療処置を受けながら生活を継続している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館を月に何回か利用し楽しんでいる。又、近隣の小中高校生が体験学習に来て、老人福祉について学んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネージャを通して入所前よりコンタクトを取っている。必要に応じてホームヘルパーを利用したり、入居前に老健に入所して頂く事もある。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はしていない。	○	今まで必要性がなかったため、地域包括支援センターとの協働はしていないが、これからは利用者の意向・必要性に応じて協働していきたいと思っています。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同施設内に吉田中央クリニックがあり、入所の際利用者本人と家族に説明し納得して頂き、かかりつけ医として受診支援関係を築いている。利用者や家族の希望で利用者の状況に応じ、他の病院も受診をしている利用者もいる。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状況に応じ、専門医を受診する様にすすめている。又職員も認知症専門医に相談している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当グループホームでは看護師が随時いる為、利用者の普段の状況等を常に把握し、健康管理等の支援に努めている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入退院には必ず家族と一緒に付き添い、医療機関との情報交換を図っている。退院後のケアについては細かく家族・医療機関と相談し今後のケアに生かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状に関しては家族・医師・職員等とくり返し話し合い、情報の共有化がなされている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末に関わる援助方針にそって医療行為は延命行為ではなく、その方らしい生き方を家族・医師・職員がチームを組み、支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の住居へ移り住む際は家族・本人・職員で充分話し合いしお互い納得し、退去先へは今までの情報の提供を行い支障のないよう配慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、声かけ・誘導等本人を傷つけないよう配慮している。又個人の情報は他人に漏らさないよう守秘義務を守っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	色々な場面で利用者の希望を聞き、本人の希望にそうよう支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、一人ひとりの個性や思い・ペースを大切に、本人の意思決定により生活の支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の個性や好みのおしゃれを大切に支援している。又定期的に理容師が母体施設を訪れるので、本人の希望する髪形を伝えてカットしている。馴染みの美容院に家族等が同行している利用者もいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアハウスのレストランには主菜は作ってもらいが、副菜は利用者と職員と一緒に作っている。又利用者の希望を聞き、月に何回か一緒に買い物に行き調理をしている。又屋外昼食会・ドライブ等季節感や食事の楽しみ等を持っていただけるよう取り組んでおり、又メニューから片付けまで相談しながら支援している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に3度は飲酒の日として好きな飲み物を楽しんでいる。又希望時就寝前少量の酒を楽しむ方もおられる。利用者の好きなおやつを買い物に行き、毎日おやつの時間に楽しんでいる。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを作成し、その人の排泄パターンに合わせ見守ったり、トイレ誘導を行い自然排泄への支援をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴希望時間に合わせ毎日の入浴を原則とし実施している。又入浴拒否の方には無理じいせず気持ちの落ち着いた時に声かけしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人の睡眠パターンを把握し、日中の生活状況や活動量に応じて安心して休息できるよう支援している。又眠れない方にはお茶を出したり、添い寝する等安心して睡眠への導入が出来る様配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の経験や好きなことや特技に合わせて家事を分担したり、テレビを見たり縫物や折り紙等無理なくしてもらっている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に何度かは利用者がそれぞれお金を持って買物又施設内にも売店があり、おやつを買いに行ったりしている。その人の能力に応じた支払い支援をしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームだけで過ごすことのないよう積極的に出かけている。（買物・散歩・近隣訪問・集会参加等）又歩行困難な方は車椅子を利用し外出支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	積極的に家族に本人の希望を伝え、出かけられる機会を作っている。又年に1・2度は家族・利用者全員で出かける機会を作っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に希望や用事がある時は電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人がいつでも訪問できるような雰囲気を作っている。又訪問された時はゆっくり会話できる場所を提供している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が身体拘束禁止を掲げており、どんな場合においても身体拘束はしない事を徹底している。又今後身体拘束をしない為にも研修会をしている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内は鍵をかけない事が原則となっており、鍵はかけていない。常に利用者の行動を把握しており徘徊する方については気分転換に外に散歩に出たりしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、常に利用者の所在を把握し、安全を確認している。又センサー等は設置していない。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物等注意の必要な物は決まった場所に保管しているが、使用時は職員がついて利用者と一緒に使用している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、日頃より研修会を行い事故のないよう注意している。事故やヒヤリハットが発生した時は記録し、検討・反省し今後の事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月に1度勉強会を実施し、日中又は夜間帯等を想定し定期的に訓練を行っている。緊急連絡網による職員すべての応援体制も整備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホーム内の避難誘導等の訓練を全職員で行っている。又月に1度他事業所の避難訓練に参加し、年2回消防署、消防団と地域住民による訓練にて地域の方との連携をしています。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態を把握し、リスクのある利用者については家族と充分話をしリスクのないよう対策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルを測り体調に変化や異変がないか観察に努めている。異変があった時は、情報を共有した上で様子を見たり、必要に応じて受診する等対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと看護師が管理し、全職員に周知している。症状の変化のあった時は医師・家族に報告し、早期対応に努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便確認をし、便秘にならないよう必要な水分補給・運動を行い、食事・おやつ等にも工夫し、自然排便にむけ取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをするよう誘導し、声かけを行っています。義歯の利用者は夜間消毒を実施しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を毎日記入し一人一人の摂取状況を把握し、食欲不振の時は本人の好みや状況に応じた食事を用意している。栄養摂取量・栄養バランスを考え、本人の嗜好も勘案し献立に採り入れている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、定期的に研修会を行っている。随時地域の感染症発生状況に応じ、職員に周知し予防対策等を行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・台所用品は洗剤で洗浄後乾燥機にかけ熱処理している。ふきん・台ふきはハイターにつけ消毒後乾燥している。1週間に1回環境整備の日をもうけ、冷蔵庫内や台所用品を整理しアルコール製剤で消毒する等、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には季節の花や季節の作品を飾り、やすらぎの場とじて頂ける様に工夫している。玄関には長椅子を置きエレベーターに乗られるまで安全に居て頂ける様にしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節に合わせて利用者と一緒に作品を作り飾って楽しめる様にしている。又写真を飾り思い出作りをしたり、ディールームからは季節の花が見え、楽しめる様工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツの間やリビングの小さなソファや玄関先の談話室など、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の昔から馴染みの物や家具・家族の写真、利用者の作品を飾る等、居心地よく過ごして頂ける様工夫している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、匂いや空気のとどみがない様にしている。冷暖房だけに頼らず、自然換気でも調節している。利用者の状態に配慮し、訴えにも対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは一人ひとりの身体機能に合った物にして安全に生活して頂ける様にしている。夜間トイレまで行くのが困難な方にはポータブルトイレで自分で排泄出来る様にしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口にはその方ののれんをかけ利用者と一緒に行った作品を飾り、表札をかけ自分の居室と理解して頂ける様にしている。入浴室やトイレはわかりやすくのれんをかけたり、大きな字で表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花を植えたり、野菜を植え利用者と一緒に育てる喜び、収穫の喜びを味わう事が出来る様にしている。洗濯物を干したり、取り入れたり、仕事も出来る様にしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

特に力を入れている点

○利用者個々を尊重し、本人の希望や願いを実現できるよう支援している。又利用者の得意とする事やできる事を生活の中にとり入れ、生き生きとした生活ができるよう支援している。

アピールしたい点

○当グループホームはケアハウスの10階にあり、リビング・掘ごたつの部屋から大きなガラス張りを通して180度視界が広がり、まるで自然のふところに包まれているかの様である。又建物自体がいろんな変化に富んだ造りになっており、神社や噴水のある公園を取り囲む様に施設があり、桜並木や自然をとり入れた遊歩道等、四季の移り変わりを肌で感じながら散歩したり、花を鑑賞したりゆったりした時間の流れを感じながら過ごせるグループホーム、まさにやすらぎの里。

○複合施設があり、他事業所の行事等にも気軽に参加でき、利用者と交流を図っている。

○緊急事態（体調急変・火災）等が発生した時、他事業所からの応援体制が整っている。